

オーストリア

とっておきの時間が
見つかる旅

ポケットガイド
austria.info
#feelaustria



オーストリア
心弾むシンフォニー

＝ オーストリア 心弾むシンフォニー

オーストリアは、アルプスからドナウ川、さらには東のパンノニア平原に至るまで、すばらしい自然景観に溢れています。これら絶景の他にも、この国の特徴の源となっている見どころや歴史、興味深い物語、美食は枚挙にいとまがありません。

しかしながら、いかにアルプスが感動的でも、いかに湖水が透明でも、いかに町が美しくても、結局のところ、オーストリアを特別で素晴らしい国にしているのは、そこに住む人々であるというのは間違いありません。オーストリア人がユニークで、居心地の良いスタイルで生活を送っていることや、個性的で独特なユーモアを持っていることはよく知られています。皆様もこの国を訪れ、よい生き方を求めるオーストリア人の精神性にぜひ触れてみてください。

オーストリア政府観光局



P. 3

オーストリアについて
オーストリアの芸術やグルメ、
歴史、地理などをご紹介します



P. 14

ウィーン
ウィーンの見どころ
ウィーン市街地図
ウィーンの郊外へ



P. 22

ザルツブルク
ザルツブルクの見どころ
ザルツブルク市街地図
ザルツブルクの郊外へ



P. 26

グラーツ
グラーツの見どころ
グラーツ市街地図
グラーツの郊外へ



P. 30

インスブルック／チロル
インスブルックの見どころ
チロルの町々



P. 31

インフォメーション
旅に役立つ基本情報

発行：オーストリア政府観光局 Austrian National Tourist Office
編集＆デザイン：株式会社東美 発行日：2021年2月 記載内容は変更されることがあります。
施設のオープン状況、イベントの開催については各ウェブサイトでご確認ください。

FOTO © C1: Österreich Werbung/Peter Bugstaller, P2: Tourismus Salzburg GmbH/Guenter Breitegger, Vienna PASS/Bernhard Luck, Graz Tourismus/Werner Kog, Innsbruck Tourismus/Christof Lackner, C4: Österreich Werbung/thecelebratingid.com

FOTO © Tourismus Salzburg GmbH/Guenter Breitegger

芸術の国 オーストリア

オーストリアは長い歴史を通じて音楽と美術の保護を
旗印に掲げ、他国ではほとんど例がないほどの
資金と労力を注いできました。



ヨーロッパの中心に位置するオーストリアは、古来より様々な文化が交錯し、豊かな文化と歴史を育んできました。中でも「音楽」は、この国を紹介する上で最も重要な代名詞といえます。世界的に名高いウィーン国立歌劇場、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン少年合唱団、フォルクスオーパーなどは、オーストリアの文化使節としても活躍しています。

オーストリアの音楽史上「ウィーン古典派」は、偉大な文化遺産の一つに数えられます。そのウィーン古典派は、ハイドンに始まり、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトが含まれます。ロマン派を代表するのは、ブラームス、ヴォルフ、ブルックナー、マーラーです。ヨハン・シュトラウスとフランツ・レハールはオペレッタの分野で名を馳せ、そして、シュランメル兄弟の音楽は、ウィーンのワイン居酒屋「ホイリゲ」と切っても切れない関係にあります。

また、毎年各地で開催される数多くの音楽祭には、世界中から音楽ファンが集います。最も有名なザルツブルク音楽祭をはじめ、ウィーン芸術週間、ボーデンゼー湖のブレゲンツ音楽祭、メルビッシュの湖上音楽祭、グラーツのシュティリアルテ音楽祭、フィラッハ/オシアッハのカリンシア夏の音楽祭、シューベルティアアーデ、リンツの国際ブルックナー音楽祭やクラングヴォルケ、そしてアイゼンシュタットのハイドン音楽祭、グラウフェネック・クラシック音楽祭、サンクト・マルガレーテン採石場野外オペラフェスティバルなど、多彩なプログラムが繰りひろげられます。

ウィーンフィルのニューイヤーコンサートとシェーンブルンでの夏のコンサートは毎年、世界中に中継・放映され、音楽ファンを楽しませてくれます。

スローフード、 オーガニック先進国 オーストリア

「食」はオーストリアを旅する大きな楽しみの一つ。

オーストリアのオーガニック食材は国際的に認められ、生産地を訪ねる旅など、新たな休暇スタイルにも注目されています。もちろん、その美味しさは格別です。



国土の13%が耕地で、その内の10%の農家が有機農業従事者であるオーストリアは、まさに国際的なオーガニックの先進国です。それは、消費者と生産者、すべての人にとってプラスに働きます。消費者はより健康的で、より美味しい食事が楽しめ、生産者は多くの種類の野菜の作付けができ、家畜の忘れられた品種を復元し、また、事業経営と収入を改善することができます。有機栽培由来の製品を称する「ビオ (BIO)」は、厳しい基準をクリアしたものに与えられる高品質の証です。これは、一時的な流行ではなく、将来も永久に定着したものとなるでしょう。大きなスーパーマーケットのチェーン店が、ビオ食品の品揃えで、ますます利益を増加させていても驚くことはありません。オーストリアは「ビオ製品」では、ヨーロッパでトップランクを誇る生産国なのです。

オーバーエステライヒ州シュリアパッハの、クレムス渓谷の上にそびえる女子修道院を中心として、多様な有機農業を行う活動家たちの総合的なネットワークが出現しました。シュリアパッハ女子修道院の修道士たちによって運営製造されているチーズは、オーガニックの特別な製品として1999年以来作られています。修道院のオーガニックチーズには、セミハードタイプで天然の脂肪分を含んだもの、ビオ・パウルスと呼ばれるマイルドで香りのよいソフトチーズ、赤い皮で包まれたクリーミーなビオ・パッカスがあります。これら3つのチーズは、ずっと以前からチーズグルメたちの間で人気がありました。修道院見学ではチーズのテイスティングも可能です。シュリアパッハ近郊には、伝統的なファームステイ休暇ができるビオ・ファームがいくつもあります。ここでは希少な家畜が繁殖保護されていて、リンゴからヤギのチーズに至るまで、グルメが絶賛する多種多様な美味しい食物をビオ・レストランで提供しています。

FOTO © Fotolia



北へ進むと、ライ麦と天然のサワードウ（発酵生地）を使って作られる、恐らくオーストリアで最高の、オーガニックの大きな長丸パン「マウラッハ・シュトゥルツェン」が焼かれています。美味しい飲み物をお求めでしたら、オーストリアのワイン地方に直行してください。ここには、化学肥料、害虫駆除剤、殺虫剤や除草剤などを使わない、オーガニックなブドウ栽培をしている人々がたくさんいます。ここで生産されるワインの硫黄含有量も、法で定めた基準の三分の一以下ですから、安心して美味しいワインが楽しめます。

ザルツブルク州の有名なウィンター・リゾート、例えば、ツェル・アム・ゼー／カプリーン、オーバータウエルン、フラッハウ、ホッヒケーニツヒ、または、スキースカス・ザールパッハ ヒンターグレム&レオガングの食の探検ルートでは、山小屋ファンを24の山小屋と山上レストランへ誘います。「ヴィア・クリナリア (www.via-culinaria.com)」のガイドブックには、ゲレンデのすぐ近くのレストランが全部載っています。素朴で居心地のよい部屋で、数あるアルプスの美味しい料理から、お好きなものをお選びください。心温まるスープから、風味豊かな冷製肉料理や、自家製のベーコン、ソーセージとチーズの盛り合わせに焼き立て

のパン、その他、オーストリアのチーズ団子「カースノッケン」や、コテージチーズの団子「トッフェンクーゲルン」、デザートにはふわふわのちぎったパンケーキ「カイザーシュマレン」はいかがですか？ アルプスの山小屋で味わう料理は一味違います。

ワインケラーの小径やブドウ園が点在するニーターエステライヒ州のワインフィアテル地方は、心地のよいピクニックに最適なところ。地元にある10店の主人に、ピクニック前日までに予約しておけば、ジューシーなロースト肉とポテトサラダ、ソーセージ、チーズとバター、ナッツ入りのワインフィアテルのブレッドや、新鮮な野菜のピクルス、パンとフルーツなど、この地方の美味しい特製料理がたっぷり詰まった、豪華なピクニックバスケットを用意してくれます。これらの料理の他に、ここオーストリア最大のワイン生産地域では、もちろんDACワイン（オーストリアのオリジナル品質保証認定されたワイン）のボトル1本と、地元のミネラルウォーターとジュースも入れてくれます。持ち物がすべて揃ったら、さあ、近くのピクニックエリアへ出掛けましょう。



FOTO © Salzburg Land Tourismus, Österreich Werbung/Andreas Jakwerth

ケルンテン州の中部ケルンテン地方は、クラーゲンフルトの北数キロに位置するエリアです。この地方では、古くから手工業と農業が盛んだったため、数年前に「ミッテルケルンテン市場」が率先して作られました。ここは45人の職人と、さまざまな異業種の製造業を繋いでいます。靴屋、金細工職人、ワイン造り職人、醸造者、居酒屋の主人、そして農業者などの人々が、一般の人々のために店を開いています。詳細を知るには、マグダレンスベルクにあるメアリンクホーフ農場の見学ツアーを予約してみてもいいでしょう。



そこではタウシング夫妻が穀物の育て方を見せてくれます。これらの有機栽培のパイオニアたちが行っている活動は、有機栽培と認定された農業と、従来型の農業との違いを説明してくれます。また、穀物がどのようにしてパンになるのか、その種子がどのようにして油になるのかを教えてください。有機栽培認定農家として、彼らは土壌、地下水、昆虫や動物に有害な事は一切しません。彼らのお店「タウシング自然食品」で売られている、さまざまな種類のパンやオイルの人気の高さが、彼らのビジネスの大成を証明しています。オーストリアでは食の安全はもとより、そこで生活する人々や訪れるゲストのために、自然環境の保全と多様なエネルギー施策に力を入れています。

オーストリアは新鮮で純粋な水が豊富で、それが特に国の誇りの一つになっています。湧水や地下水、湖水の高い品質を保つために、何十年にもわたり様々な施策をとり守ってきました。オーストリアのほとんどの水道水は、アルプスのわき水を利用しており、直接飲むことができるのです。また、水浴に関するEUの水質調査によると、オーストリアの湖は極めて優れた水質であるという結果となりました。調査した268カ所の水浴場所の97%が「傑出」あるいは「優良」という最高評価を得ています。

オーストリアの多くの地域では、環境に優しい公共交通機関の利用を推奨しています。例えば、ザルツブルクでは「パーク&ライド」のシステムを観光都市として先駆けて導入し、一般の自動車を進入禁止にしました。アルプスの有名なリゾート地レッチでは、もう何十年も前から町の入り口に巨大な地下駐車場を建設し、町への自家用車の利用を減らした

り、山腹にあるオーバーレッチのホテルへの移動は、駐車場からケーブルカーでアクセスするようにしています。また、年間100万泊に近いゲストを迎えるチロルの人気スキーリゾート、人口わずか1100人ほどのセアファウスでは、1985年に地下鉄を建設し、車の排気ガスによる自然破壊を防いでいます。これらの町では、ハイカーや登山者、スキーヤー用のバスやタクシー、馬車を利用しましょう。また、Eバイクや通常の自転車無料で借りられます。

オーストリア西部にある静かな山岳地方フォアアルペルク州は、伝統的に酪農と、やや保守的な地方文化で知られていましたが、今日では革命的なエネルギー使用の先駆者として、世界中から注目されています。この州は7つある村の内、3つの村が欧州エネルギー賞計画から5つ星を受賞しています。ブレゲンツの森地方の中心にあるランゲネック村はその一つで、100以上のエネルギー効率に有効な取り組みが行われています。その中で最も重要なプロジェクトの一つが、小学校、カフェ、スーパーマーケットの3つが入る多目的建造物を建設することでした。これらのパシプハウス(省エネルギー住宅)と呼ばれる建物は、平均的なヨーロッパの家が暖房に必要なエネルギーの10%しか使いません。

その他、オーストリアの都市部のホテルでは熱は自社ビルの地下水ヒートポンプとソーラーパネルから、そして電気は光電池から得ており、既にゼロエネルギーを誇っています。

FOTO © Militärer See Tourismus GmbH/Gert Perauer

ハプスブルク家の史跡を訪ねて

オーストリア全土では今日でも、
巨大なハプスブルク家のオーラを感じることができます。
しかしそれは、豪華な建築や街によるものだけではありません。



今日でも、皇帝家の遺産がまだ脈々と受け継がれていると感じ取ることができます。これは、オーストリアが帝国時代と同様、現在も数多くの文化を宿しているためと、ハプスブルク家が無数の立派な建築物を国内の至る所に残したことにあります。特にハプスブルク家の居城、ホーフブルク王宮があるウィーンで強く感じるすることができます。このウィーンから、皇帝フランツ・ヨーゼフ1世はハプスブルク帝国の運命を68年(1848–1916)もの間、歴代最長にわたり統治してきました。また、オーストリア＝ハンガリー二重帝国の輝かしいセレブリティである皇妃シシィ(1837–1898)の面影はあらゆる所で見つけることができます。シシィ博物館やカイザーアパートメント(皇帝の居室)では、シシィの印象的な私生活を垣間見ることができます。刺殺された皇妃シシィのオリジナルのデスマスクなどが訪れた人々を感嘆させています。

皇帝家の史跡は、ウィーンの中心部の各所に散りばめられています。ヨーゼフ広場にあるアウグスティーナー教会では、ハプスブルク家の結婚式が挙行され、また葬儀も行われました。皇帝納骨堂には、12人の皇帝、19人の皇妃や王妃が永遠の眠りにについています。さらに

FOTO © Österreich Werbung/Hans Wrisenhofer

活気溢れる帝国のシンボルは、バロック様式の城であり華やかな庭園を持つシェーンブルン宮殿です。シェーンブルン宮殿はユネスコ世界文化遺産に登録されています。皇帝たちは夏の間、数えきれないほどの部屋があるこの城で過ごしました。サロンや皇帝一家の居室は今日でも訪れることができます。

ハプスブルク家の人々は暖かい時期に、首都から遠く離れたザルツツァンマーズグートのバート・イッシュルで過ごしました。多種多様な民族や利害関係を一つの国に統治するのは、とてつもない課題でした。過労が氣力を一気に奪っていったとき、皇帝はこの地で執務から離れ休息を取りました。このようにハプスブルク家は、その遺産を豪華な建築物や城の形で残しただけではなく、オーストリア人のメンタリティーという形でも残しました。100年前までは多民族国家として統一されていた土地の多くの文化的影響と文化様式を現在もこの国に暮らす人々に感じることができます。ドイツ人の秩序と徹底性、情熱的なスラブ系の気質、ハンガリー人のブラックジョーク、イタリア人の陽気さとジェスチャーの伝統。多国籍国家は、オーストリア人の精髓として人々の中に存在し続けています。

人生の“愉しみ”を満喫する

オーストリア人は、人生を謳歌することに長けています。ここでは、人生を最高に楽しむために彼らが通う特別な場所を、いくつかご紹介しましょう。



ワイン居酒屋「ホイリゲ」

オーストリアは人生の楽しみ方をよく知っている国です。そして、ホイリゲはまさにオーストリアの温かさと居心地の良さを実感できる場所として、この国の人々にはとても馴染み深いところです。地元の人々はホイリゲに集い、ワイン醸造者が造った自慢の新酒と、美味しい家庭料理、自家製のベーコンやチーズなどに舌鼓を打ちます。テーブルには楽しい会話と笑い声があふれ、時が経つにつれて歌声が店内に響き渡ります。ホイリゲで楽しむ伝統は、少なくとも18世紀まで遡ることができます。それは、時の皇帝ヨーゼフ2世が、いつでも誰でも自家製のワインを販売したり、供したりすることを許可する条例を施行した時代でした。

ウィーン郊外のホイリゲ地区、ニーダーエステライヒ州、ブルゲンランド州とシュタイアマルク州のワイン産地にあります。

山小屋「アルムヒュッテ」

アルプスの牧草地に建つ山小屋は、元々、夏の間山の腹の牧場で働く牛飼いや酪農従事者の住居でした。その後、山小屋はアルプ

ス文化と人生の喜びを象徴するものとなりました。

よくある板葺きの小屋では、訪れる旅行者やハイカーを親かなオーナーが温かく迎えてくれます。山小屋では、心尽くしの料理とサワー種黒パンが供され、楽しい会話とアルプス独特の魅力を楽しむことができます。山小屋はアルプスのハイキングコースに沿ってあります。フォアアールベルク州、チロル州、ザルツブルク州などオーストリア西部に多く点在します。

地元の人が集まる居酒屋「バイスル」

オーストリアの温かさと居心地の良さを語る時、3つの場所が挙げられます。それは、カフェとワイン居酒屋、そして昔ながらの居酒屋「バイスル」です。典型的なバイスルの設えは、木製バーカウンターと木製の壁の羽目板、メニューを手書きした黒板を特徴としています。ウィナー・シュニッツェルやエッグノッケル、古典的な家庭料理がどこのバイスルでも味わえます。

地元で人気のバイスルは、オーストリア中どこにでもあります。

FOTO © Lisa Ederbauer

ソーセージスタンド「ヴュルステルシュタント」

ここは単なる伝統的なスナック・バーではありません。仕事の合間にちょっと立ち寄って一息入れる大切な場所なのです。ここで、ケーゼクライナー（チーズ入りソーセージ）にマスタードを添え、パンと食べ、ウィットに富んだ、魅力ある店員と会話を楽しみます。当初、ヴュルステルシュタントは帝国時代に、退役した傷痍軍人たちの生計を立てる仕事を与えるために出現しました。伝説的なケーゼクライナーは、オーストリア人が創作したものです。ソーセージのレシピはスロヴェニアが起源ですが、それをオーストリアの食通が、ソーセージを焼いた時に溶けるチーズを加えて完成させた、手軽で美味しいご馳走なのです。ウィーンのソーセージスタンドが有名ですが、オーストリアのどの主要都市でも見られます。

ケラーガッセ・ワイン祭り

ワインの生産地域の夏のハイライトが、このワイン祭りです。この時期、人々はワインケラー（ワイン貯蔵所）が立ち並ぶ小路をそろそろ歩き、貯蔵所から貯蔵所へと渡り歩いて、それぞれのワイン醸造者が造った素晴らしい新酒と美味しい料理を味わって回ります。それに加えて、何世紀もの歴史を誇る、見渡す限り続くブドウ畑の風景は、見る者に活力を与えてくれます。

ワイン祭りは、オーストリアのワイン生産地の各地で行われています。特にニーダーエステライヒ州が有名です。

ビアガーデン

夏の暑い夜、人々に愛されている場所の一つが、国中どこにでもあるシャニーガルテン（シャニーとは、オーストリアのニックネームでヨハンの愛称）とも呼ばれるビアガーデンです。仕事の後、オーストリア人はこれらのビアガーデンに立ち寄り、ニワトコの花から作ったホルンダージュースや、ビールで喉の渇きを癒します。店によっては、オリジナルのビールを醸造して提供しています。このような所では、普通のタベがさやかな祝杯の席へと変わり、ありふれた日常をしばし忘れさせてくれます。ビアガーデンは、ザルツブルクが有名ですがオーストリア中どこにでもあります。

FOTO © Österreich Werbung, WienTourismus/Peer Rigaud



カフェ

ウィーンのカフェ文化は、オーストリア人が食通である事を証明する最適の例でしょう。ウィーンではカフェが、ユネスコにより無形文化遺産として認定されたほどです。その歴史は17世紀末まで遡ることができ、トルコ軍によるウィーンへの包囲攻撃と深い関わりがあります。代表的な古典のカフェのインテリアは、小さな大理石のテーブルに、トーネット・デザインの曲木製の椅子、ボックス席、新聞ラック、歴史主義的意匠の飾り付けを施した内装を特徴としています。そして、カフェで出される水も、オーストリアのカフェ文化を特徴づけています。また、世界で初めてお客様に新聞を提供したのはウィーンのカフェといわれています。

カフェは、オーストリア中どこにでもあります。最も有名なのはやはりウィーンのカフェでしょう。



個性あふれる 9つの州

オーストリアは
個性あふれる9つの連邦州からなる共和国です。
各州にはそれぞれの魅力と特長があります。



ウィーン

オーストリアの首都ウィーンは古い伝統を持つハプスブルク帝国の都、音楽と芸術が輪舞する街。その一方で、近代的で未来を志向する建築物も多く、スタイリッシュなライフスタイルと活気のある文化の愉しみにあふれています。市の周囲には約1350km²にもおよぶ広大なウィーンの森が広がり、市民の憩いの場所となっていて、これは他のヨーロッパの大都市にはみられない独特の魅力です(14ページ参照)。

ニーダーエステライヒ州

ウィーンを囲むようにして広がる州。州東側の丘陵地帯は良質のワイン産地になっており、北部は森林におおわれています。バロック様式の修道院が建つメルクとクレムス間のロマンチックなドナウ川の渓谷は「ワッハウ渓谷」と呼ばれ、ユネスコ世界遺産にも登録されており、ニーダーエステライヒ州でいちばん人気のある休暇地となっています。州都はサンクト・ペルテン。

ブルゲンランド州

オーストリアの東端に位置する州。ここには世界遺産のノイジードラーゼー湖があり、野鳥の宝庫であるゼーヴィンケル国立公園も隣接しています。ルストなど、コウノトリがコロニーを作る農村やハンガリー風のエキゾチックな町が魅力。オペレッタ・フェスティバルで有名な湖畔の町メルビッシュ、サンクト・マルガレーテンの野外オペラなど音楽イベントも豊富です。また、良質でおいしいワインの産地としても知られています。州都はハイドンとエスターハーギー侯爵家ゆかりの街アイゼンシュタット(21ページ参照)。



シュタイヤマルク州

森が豊かなことから「緑の州」とも呼ばれており、アルプスの大自然はもちろん、牧歌的な村の風景が美しい地域で、数多くの文化財を見ることができます。スロヴェニア国境の南シュタイヤマルク地域はワインの名産地として有名です。プッシュェンシュンクと呼ばれるワイン生産者の直営店が点在しており、ワイン愛好家におすすめのルートです。一方、バート・アウスゼー周辺のザルツカンマーグートのシュタイヤマルク州側の部分は、美しい湖と山の景観によって、南部とは違った魅力を放っています。州都はグラーツ(26ページ参照)。

オーバーエステライヒ州

風光明媚な湖水地方ザルツカンマーグートは、オーバーエステライヒ州にも広がり、保養休暇を過ごすのに理想的な環境を提供します。皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と皇妃「シシィ」はバート・イッシュルで何度も夏を過ごしました。州の北側の森の深いミュールフィアールの丘陵地帯は、チェコとの国境を形成しており、訪れる人々を惹き付けます。州都のリンツは、音楽家ブルックナーゆかりの街として知られ、モダンなアルスエレクトロニカセンターやレントス美術館など、芸術探訪もおすすめです。

ザルツブルク州

ザルツブルク州は、ハイカーや自然愛好家の憧れの場所となっているホーエタウエルン国立公園を含むアルプスの山岳地方。ザルツカンマーグートの大自然の美しさは映画『サウンド・オブ・ミュージック』でお馴染みです。ザルツブルクの名前の由来の「岩塩の城」を体験できるハラインの岩塩坑や、「きよしの夜」誕生の地オーベルンドルフ、世界一の氷穴があるヴェルフエンなども見どころです。州都はザルツブルク(22ページ参照)。

ケルンテン州

オーストリアの最南部にあるケルンテン州には、ヴェルターゼー湖、オンアッハゼー湖、ミルシュテッターゼー湖など、湖水浴のできる大きな湖があって、水泳や水上スポーツが楽しめるパラダイスとなっています。州の最北端にはオーストリア最高峰のグロースグロックナー山が秀麗な姿を見せています。州都のクラゲンフルトは、バロックとヨーゼントシュティールの建物が建ち並び、芸術や文化の薫り高い見どころの多い古都です。

チロル州

牧歌的な山の景色で知られるチロル州の文化の拠点は、インタール渓谷に数珠つなぎに存在します。インスブルック、ハル、ラッテンベルク、クーフシュタインなどの魅力的な町が点在します。また、ツィラータール、シュトゥーバイタール、エッツタールなどの渓谷、サンクト・アントンやゼーフェルトはハイカーやスキーヤー、そして休養を求める人々の理想郷として有名です。また、東チロルはザルツブルク州をはさんで離れたところに位置する自然の宝庫です。州都はインスブルック(30ページ参照)。

フォアアールベルク州

オーストリアの一番西に位置する州。面積は小さいながらも、シルヴレッタの氷河の世界からライン渓谷の平地にいたる、変化に富んだ自然が特徴です。州都ブレゲンツを有名にしているのが、世界最大のオペラ・フェスティバルの一つ、夏の「ブレゲンツ音楽祭」。個性的な湖上ステージは映画007のロケでも使われました。スキーやハイキングが盛んなアールベルク地方の村レヒトは、世界のセレブが休暇を過ごす高級リゾート地で「ヨーロッパで最も美しい村」に選ばれました。



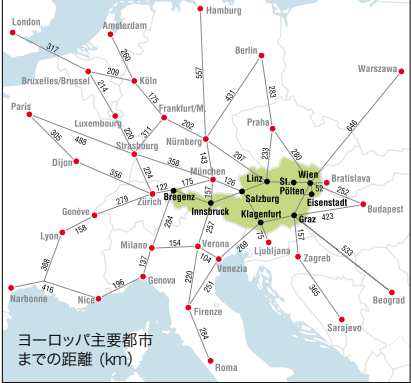
オーストリア地図

位置と距離

オーストリアは中央ヨーロッパの南部に位置し、国土の総面積は83,858平方キロメートル、人口は約890万人。公用語はドイツ語ですが、英語もよく通じます。



- アウトバーン
- 建設中のアウトバーン
- 高速道路
- 建設中の高速道路
- 幹線道路
- 主要道路
- その他道路
- 鉄道
- 国際空港
- 国境
- 州境



MAP © Ed. Hölzel, Wien

9つの州と州都



州都間の距離

(km)	ブレンツ	アイゼンシュタット	グラーツ	インスブルック	クラゲンフルト	リンツ	ザルツブルク	ザクト・ベルテン	ウィーン
ブレンツ	—	769	700	187	575	547	429	656	720
アイゼンシュタット	769	—	183	582	307	232	347	113	55
グラーツ	700	183	—	513	133	215	255	190	210
インスブルック	187	582	513	—	377	360	242	469	533
クラゲンフルト	575	307	133	377	—	257	212	339	335
リンツ	547	232	215	360	257	—	118	121	185
ザルツブルク	429	347	255	242	212	118	—	230	294
ザクト・ベルテン	656	113	190	469	339	121	230	—	65
ウィーン	720	55	210	533	335	185	294	65	—

ウィーンの見どころ

誰もが憧れる音楽と芸術の都ウィーン。
古くよりヨーロッパの東西と南部を結ぶ十字路として栄え、
いまでも宮廷文化が華麗に息づきます。



古くよりヨーロッパの東西と南部を結ぶ十字路として、ウィーンは二千年の歴史に育まれてきました。ハプスブルク家が育んだ音楽と芸術の都として知られ、ハプスブルク帝国の重要な歴史的建築が見どころですが、最近ではモダンな現代建築、最新のデザインやファッションの発信地としても知られるようになりました。

シュテファン大聖堂 鮮やかな屋根が街並に花を添えるウィーンのシンボル。南北2つの塔からはウィーンの街が一望にでき、石造りの説教壇や祭壇を彩る絵画など幻想的な内部装飾は必見です。カタコンベ(地下墓地)には歴代皇帝の臓器が安置されています。

[MAP] P.19 B-3

シェーンブルン宮殿 ユネスコ世界遺産に指定されたハプスブルク家の夏の宮殿。マリア・テレジア・イエローで彩られた外観が印象的。ロココ様式で統一された内部には、1400余りの部屋があり、そのうち40室が公開されています。ウィーン会議の際に舞踏会場として使用された大広間、6歳のモーツァルトが御前演奏した鏡の間は必見です。宮殿の後方に広がる庭園は面積1.7km²。シェーンブルン(美しい泉)の名前の由来となった泉、1752年から始まった現存する世界最古の動物園、大温室パルメンハウス、ネプチューンの噴水、迷路庭園、日本庭園があります。ギリシア風の神殿グリロエッテの中にはカフェがあり、また、宮殿に隣接する馬車博物館には歴代の皇帝たちが使用した豪華な馬車が展示されています。

www.schoenbrunn.at

FOTO © Vienna PASS/Bernhard Luck



ベルヴェデーレ宮殿 バロック宮殿の最高傑作に数えられるベルヴェデーレ宮殿は、ヨハン・ルーカス・フォン・ヒルデブラントが設計、対トルコ戦争の時代、ハプスブルク軍の総司令官であったサヴ

オイ家のオイゲン公(1663～1736)が夏の離宮としていました。式典用の上宮と居住用の下宮からなり、その間には緩やかに傾斜したバロック庭園があります。上宮のオーストリア・ギャラリーには、クリムト、シーレなどユーゲントシュティール、ピーダーマイヤー、歴史主義などの名画が多く、下宮にはバロック美術の名作が展示されています。

[MAP] P.19 D-3,4 www.belvedere.at

リング通り 19世紀の中頃、ウィーンの旧市街を取り囲んでいた城壁を皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の命により取り壊し、現在の幅広い環状道路が作られました。この通りに沿って、公園、国会議事堂、市庁舎、大学、ブルク劇場、国立歌劇場、美術史／自然史博物館、王宮などが、まるで建築図鑑のように立ち並んでいます。

[MAP] P.18, 27 A, B, C-2, 3, 4



FOTO © Österreich Werbung/Julius Silver, WienTourismus/Peter Rigaud

ホーフブルク王宮 ハプスブルク家の皇族たちが住居として使用していた居城。帝国の発展に伴い増改築が繰り返され、各時代の建築様式が共存する建物となっています。旧王宮ではシシィ博物館と皇帝の住居を公開しています。銀器コレクションも見事です。宮廷宝物館ではオーストリア帝冠や様々な宝物が展示されています。新王宮にはウィーン世界博物館があり、日本の展示もあります。また、隣接する王宮庭園には有名なモーツァルト像があり、絶好の写真スポットとなっています。

[MAP] P.18 C-2 www.hofburg-wien.at

市庁舎(ラートハウス) 1872年から1883年にかけて造られたネオゴシック様式の建築。手前の市庁舎前広場は各種イベント会場となります。夏には音楽フィルムフェスティバル、11月中旬～12月26日はクリスマスマーケットが開催され、11～3月はスケートリンクが設置されます。

[MAP] P.18 B-2

ケルトナー通り シュテファン大聖堂から南に延び、国立歌劇場まで続く最も賑やかな歩行者専用の大通り。高級店から人気ブランド店、カフェが並び、いつも街頭ミュージシャンが活躍しています。

[MAP] P.19 C-3

ウィーン国立歌劇場 1861年から1869年にかけて宮廷オペラ劇場として建てられました。1945年に戦災を受けましたが修復され、1955年カール・ベームの指揮するベートヴェンの『フィデリオ』で再開されました。館内のガイドツアーがあります。

[MAP] P.19 C-3

www.wiener-staatsoper.at

美術史博物館 マリア・テレジア記念像をはさんで自然史博物館と向かい合う。ハプスブルク家歴代の収集品を展示し、世界屈指の美術コレクションを誇ります。ブリュゲルの作品群が特に有名です。

[MAP](#) P.18 C-2
www.khm.at



自然史博物館 先史時代からの動物、植物、鉱物やハルシュタット文化時代の出土品、約2万5千年前の「ヴィレンドルフのヴィーナス」像、マリア・テレジアの「宝石の花束」などが有名です。

[MAP](#) P.18 C-2

プラーター ドナウ運河とドナウ本流の間に広がるプラーターは、遊園地、スポーツ施設、緑地をもつウィーン市民老若男女の憩いの場所です。大人にも子どもにも人気の高い大観覧車やミニ列車をお楽しみください。

[MAP](#) P.19 A-4

ウィーン美術史博物館130周年を祝う！

絢爛豪華なウィーン美術史博物館は、ハプスブルク家が収集した約40万点の美術品を所蔵しています。絵画ギャラリーのコレクションはルーベンス、レンブラント、デューラー、ティツィアーノ、ベラスケスと広範にわたり、中でもブリュゲルのコレクションは豊富で、「農民の婚礼」を始め主要作品のほとんどがここに展示されています。また、クンストカンマー（美術工芸館）では2200点もの魅惑的な美術作品が鑑賞でき、木曜の夜は館内でディナーを楽しむことができます。



ドナウ運河 シュヴェーデンブラッツにはドナウ定期観光船発着場やカフェ、レストランがあります。夏季の土曜日には運河沿いに美術骨董品の露店市がたちます。ドナウ本流はここより東約3キロのところにあります。

[MAP](#) P.19 A-3, B-3, C-4

マリアヒルファー通り ウィーンっ子に一番人気の約2キロ（リング通り〜国鉄西駅間）のショッピング街。ウィーンでは数少ない日本式デパートもあります。地下鉄U3。

[MAP](#) P.18 D-1, C-2

1891年10月17日、皇帝フランツ・ヨーゼフ1世が美術史博物館を開館してから、2021年は130周年を迎えました。これ機に、新たな展示プロジェクトが精力的に実施されるとともに、継続的な研究活動が開始されました。また、エジプト・オリエンタルコレクションの壁画や天井画は緊急に修復が必要で、このプロジェクトに広く支援を募り、多くの寄付が集まったことで、正確な被害のマッピングを依頼することができ、修復の第一歩を踏み出しました。2018年から運営されているヤン・コルネリス・ヴェルメイエンによるタペストリーのデザインを研究・保存するプロジェクトも現在進行中です。

記念する2021年は、すべての来訪者は自身の誕生日に無料で入場することができます。（要写真付身分証明書／キャッシュレジスターでのみ有効）

www.khm.at

世紀末を駆け抜けた クリムトとシーレ

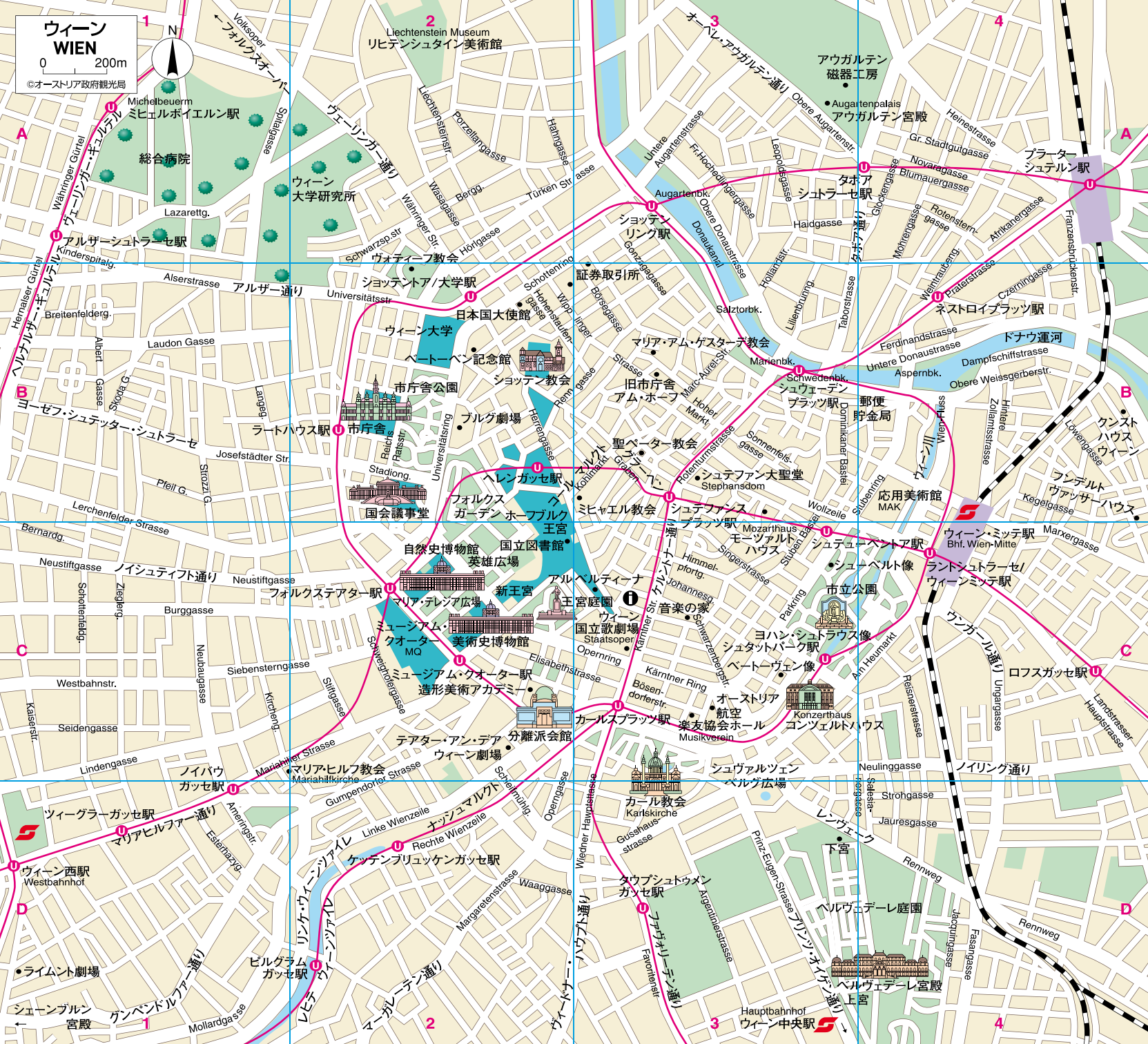
クリムトの代表作『接吻』はベルヴェデーレ宮殿、シーレの作品は、主にウィーンのレオポルド美術館で見ることができます。



19世紀末に興ったヨーロッパの芸術文化を指すアール・ヌーヴォーは、オーストリアでは「ユエグントシュティール」と呼ばれています。「時代にはその芸術を。芸術には自由を」をモットーに、19世紀末のウィーンにはグスタフ・クリムトを筆頭に、エゴン・シーレ、オットー・ワグナーほか偉大な芸術家たちが登場しました。

オーストリアを代表する画家グスタフ・クリムトは、1880年代初頭、弟のエルンストと友人フランツ・マツチュの3人で芸術家商会「キュンストラーカンパニー」を設立し、オーストリア＝ハンガリー帝国全土にわたる数多くの建物の壁画と天井画の制作を委託されます。その後、保守的な美術家協会を脱退し、「セセッション（分離派）」の名のもとに、新しい芸術家グループを結成。また、才能溢れる若き芸術家たちの後援者として確固たる地位を築きます。いまもクリムトが手掛けた歴史主義時代の壁画は、ブルク劇場や美術史博物館の階段ホールなどで見ることができます。代表作の絵画『接吻』や『死と生』、分離派会館の壁画『ベートーヴェン・フリース』は世界中の人々に親しまれています。

一方、エゴン・シーレは学校時代から授業中にいつも絵ばかり描いていて、決して成績の良い生徒ではありませんでした。しかし、美術教師だけは彼の才能を認め、造形美術アカデミーに進学できるように力を貸し、16歳のとき入学が認められました。ウィーンでシーレはグスタフ・クリムトと知り合い、次第にクリムトの影響を大きく受けることとなります。その後、わずか2年でシーレは超保守的なアカデミーを去り、芸術的功績を模索するため、友人たちと「新たな芸術団」を結成し、リーダーを務めました。シーレは常に良い友人や後援者に恵まれ、仕事の依頼も多く得ていました。一般的にはシーレの画は前衛的でユニークで、挑戦的と評価されていました。その神経質で粗い線により肉体的な特徴が誇張され、精神状態の不安定さ、表現主義における脆さが明確に表れていました。彼の美しいとはいえない裸の絵やスケッチはエロチシズムというより、むしろ運命や悲劇を感じさせるものでした。保守的な風潮の中、当時タブー視されていたテーマを追求し続けたクリムトとシーレは、絆を深め、28歳という年の差がありながらも、互いを理解し合う友人関係であったといわれています。



ウィーンの 郊外へ

森を歩きワインを味わうウィーンの森、
ドナウ川クルーズのハイライト、ワッハウ渓谷。
そしてハイドンゆかりのアイゼンシュタットへ。



ウィーンの森 ウィーンの東部を除く北・西・南をぐるりと取り巻くウィーンの森は、市街地の3倍ほどの面積、約1350km²の広さを持っています。アルプス山脈の一部をなしている豊かな丘陵地帯とドナウ川の河畔地帯ではブドウ畑が広がり、ベートーヴェンやシューベルトゆかりの歴史ある町々が点在しています。グリーンツィングは、ウィーン市内ながらホイリゲ(ワインの居酒屋)が何軒も並ぶワインの産地。シュランメル音楽を聴きながら新酒のワインを楽しむのは、ウィーンならではの夜の過ごし方です。ハイリゲンシュタットはベートーヴェンゆかりの地で、記念館や住居、記念像が点在し、田園交響曲の構想を得たベートーヴェンの小路も残っています。プファール広場の住居は、ホイリゲになっています。

アクセス: グリーンツィングへはショッテントアから市電38で終点まで約30分。ハイリゲンシュタットのベートーヴェン記念館へは、ショッテントアから市電37を終点で降り、徒歩5分です。

ワッハウ渓谷 ドイツの黒い森を起点に、オーストリアや東欧を抜け黒海まで続くドナウ川。全長約2800kmにもおよぶこの大河の一番の見どころは、メルクからクレムスにいたる世界遺産のワッハウ渓谷。その魅力を存分に楽しみたいのなら、ドナウ川クルーズがおすすめです。ウィーン西駅から準急列車で約1時間、パステル色の家並みが美しいメルクの町から出発します。メルク修道院を見学してからクルーズへ。丘陵に広がるぶどう畑や壮麗な古城などが目の前に迫ってきます。川沿いにはリースリングという白ワインの産地ヴァイセンキルヒェンやシュピッツ、中世都市デュルンシュタインなど見どころもたくさん。終点のクレムスの対岸の丘にはゲットヴァイク修道院がそびえています。

運航期間: クルーズ船の運航期間は4月上旬～10月末まで。それ以外の期間は、メルクやデュルンシュタイン、クレムスの町々を列車で訪ねます。ウィーンからは便利な観光バスも出ています。

FOTO © Freesurf

ハイドンゆかりの地 アイゼンシュタット

ハンガリーと国境を接するブルゲンランド州の州都アイゼンシュタットは、ウィーンの南約55kmにあり、車で45分、バスで1時間ほどの落ち着いた瀟洒な小都市です。ハイドンとエスターハーギー侯ゆかりの地。

エスターハーギー宮殿 中世の城塞跡に、17世紀に建てられた城館です。今日のブルゲンランド州からハンガリーにわたる広大な領地を持っていたエスターハーギー家が居住として使っていました。

ハイドン博物館 1766～1778年にハイドンが住んだ家で、大作作曲家の遺品や絵画、楽譜、当時のピアノなどが展示されています。生家はアイゼンシュタットから近いライタ川沿いの村ローラウにあり、こちらも記念館として一般公開されています。

ブルゲンランド州100周年

2021年に州の誕生100周年を迎えたブルゲンランド州は、地理的、歴史的にも意義深いオーストリアで最も若い州です。目の前に広がるパノニア平原はオーストリア西部のアルプスとは一線を画すブルゲンランド州らしい光景です。1年を通して穏やかな気候、世界遺産のノイジードラーゼー湖、名産のワイン、城や宮殿で行われる文化イベントやフェスティバルなど、観光ポイントが目白押しです。中世・近世以来、東方からの異民族の攻撃に



カルヴァリエンベルクとベルク教会 エスターハーギー侯の命で1701年に以降建設された人工の丘には、多くの礼拝堂や祠が配され、ゴルゴタの丘へ登るキリスト受難の道を再現しています。丘の上のベルク教会には、1932年パウル・エスターハーギー侯がハイドン廟を建立し、ウィーンの楽友協会が所蔵していたハイドンの頭部を提供、1954年になって大作作曲家の遺骨がようやく埋葬されました。

近郊には、ユネスコ世界遺産のノイジードラーゼー湖、コウノトリのコロニーで知られるリスト、フランツ・リストの生家があるライディング、湖上オペレッタで有名なメルビッシュがあります。

備えて複数の城砦(ブルク)が造られたことから、1918年のオーストリア=ハンガリー帝国の終焉後にその名を取り、1921年、ブルクのある州「ブルゲンランド」が誕生しました。ハンガリーとは長く濃い縁のある土地柄であり、一部の地域はオーストリア領になるか、あるいはハンガリー領になるかを住民投票で決められました。現代の冷戦時代末期にはオーストリアとハンガリーの外相が共にクリンゲンバッハの国境に張り巡らされた有刺鉄線に鉄を入れ、鉄のカーテンに穴が開けられました。数か月後には「汎ヨーロッパ・ピクニック」計画により東ドイツ市民がハンガリーのショブロンからブルゲンランド州経由で西側に脱出し、ベルリンの壁崩壊へと繋がりました。歴史に「たられば」はないと言いますが、ブルゲンランド州は近現代史における自由と密接に関わっていたのです。



FOTO © Schloss Esterházy, Österreich Werbung/Julia Silver

ザルツブルクの 見どころ

モーツァルトの生誕地で

『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台。

世界でもっとも美しい都市のひとつ。



ザルツブルクは、モーツァルトの故郷、『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台として知られ、世界でもっとも美しい都市のひとつに数えられる古都で、ユネスコ世界文化遺産にも登録されています。

ホーエンザルツブルク城 メンヒスベルクの丘の上にたたずむ町のシンボル。中世の城塞建築としては中部ヨーロッパで最も良く保存されているもののひとつです。豪華な装飾で彩られた大司教の居間や黄金の間は圧巻。「ザルツブルクの雄牛」と呼ばれる大オルガンなどがあり、城塞コンサートも開催されています。博物館には昔の武具や工芸品などが展示されており、日本語音声ガイドもあります。テラスからはアルプスの山並みと市街のパノラマが楽しめます。

[MAP] P.23 B-2

www.festung-salzburg.at

ミラベル庭園／宮殿 風光明媚なこの庭園では、ザルツァッハ川越しに旧市街のホーエンザルツブルク城とドームや数々の教会の尖塔

の麗しい姿を眺望することができます。ギリシャ神話を題材にした石像、水しぶきが輝く噴水、色彩豊かな花々などが、訪れる人々を魅了します。園内のほぼ中央に位置するミラベル宮殿は、大司教ヴォルフ・ディートリッヒが愛人サロメ・アルトのために建てた別荘です。内部の大理石の間は、室内楽コンサートや結婚式など催し物の会場として使用されています。

[MAP] P.23 A-1

ドーム（大聖堂） バロック様式とローマ風の建築様式が見事に調和した華麗な教会。大司教マルクス・シティクスのもとで建築家ソラーリによって1614年建設開始され、1628年に完成しました。モーツァルトが洗礼を受け、カラヤンの告別式が行われたことでも知られます。約6000本のパイプからなるパイプオルガン、ドーム博物館が見どころ。正面のドーム広場では毎年夏、ザルツブルク音楽祭の恒例演出『イエーダーマン』が上演されます。

[MAP] P.23 B-2

モーツァルトの生家 1756年、旧市街一番の目抜き通りであるゲトライデガッセ通り9番地で、モーツァルトは誕生しました。色鮮やかな黄色い建物は現在、記念館として一般に公開しています。モーツァルトが使用していた子供用バイオリン、コンサート用バイオリン、ピアノ、モーツァルト家の肖像画と書簡などが展示されています。

[MAP] P.23 B-2 www.mozarteum.at

ゲトライデガッセ通り 15世紀建築の市庁舎、中世以来のギルドの伝統を受け継ぐさまざまな形をした鉄細工の看板が楽しい、独特の雰囲気を出すショッピングストリート。世界でもっとも美しい通りの一つに数えられるでしょう。この通りには、買い物にもウインドウ・ショッピングにも楽しい様々なお店が多数軒を並べています。年中旅行者の姿が絶えません。

[MAP] P.23 B-1,2



サント・ペーター修道院 オーストリア最古のベネディクト派修道院。映画『サウンド・オブ・ミュージック』にも登場しました。修道院内を飾る装飾品の数々は、宗教芸術として価値の高いものばかり。裏手に広がる墓地には、モーツァルトの姉のナンネルや旧友ミハエル・ハイドンが眠っているほか、初期キリスト教徒の祈禱のための洞窟「カタコンベ」は必見です。

[MAP] P.23 B-2





モーツァルテウム 1914年設立された国際財団法人で、音楽院とコンサートホールを備え、サマーアカデミーが開催されています。庭園にある「魔笛の家」はウィーンから移されたもので、1791年この家でモーツァルトが『魔笛』を完成しました。

[MAP] P.23 A-2

www.mozarteum.at

レジデンツ 歴代大司教の宮殿で、豪華な内部はガイドツアーで見学できます。レジデンツ広場の中央を飾る大噴水は、アルプス以北で最も美しいバロック噴水のひとつとされます。この広場では9月のルーベルト祭やクリスマス市など、様々な催し物が行われます。

[MAP] P.23 B-2

www.residenz-salzburg.at

ザルツブルクのドームクォーター ドーム（大聖堂）、サント・ペーター修道院、レジデンツなどを含む旧市街の見どころを巡るドームクォーターは、17世紀に造られた回廊を通して見学することができる美術館巡回コースです。200年前と同様に重要な建物を繋ぐ回廊は美術館を超える見応えで、訪問者の知的好奇心を満たします。

この巡回コースにより、街を取り囲む丘陵の魅力あふれる新たな眺望と、素晴らしい建築物を一度に見ることが出来ます。バロック様式を代表する建築物の素晴らしい部屋の数々と、2000点ものバロック美術品を堪能することができます。

通行時間：火曜日を除き、毎日午前10時～午後5時まで、7月～8月は毎日

[MAP] P.23 B-2 www.domquartier.at

グロッケンシュピール 1702年に造られた、レジデンツの反対側にある新レジデンツの鐘楼。音程の異なる35個の鐘がついており、毎日7時、11時、18時に美しく鳴り響きます。

[MAP] P.23 B-2

マリオンネット劇場 世界で最も著名な人形劇場のひとつで、精巧な人形によってオペラやバレエが演じられます。

[MAP] P.23 A-2 www.marionetten.at

マカルト広場のモーツァルト住居 モーツァルトが故郷ザルツブルクを捨てウィーンに向かうまでの7年間（1773年～1780年）を過ごした家。現在はモーツァルト一家の博物館になっています。日本語解説あり。

[MAP] P.23 A-2

ヘルブルン宮殿 旧市街から南へ7キロ、大司教マルクス・シテュクスが作らせた宮殿です。見事なバロック庭園には水を利用したさまざまな愉快な仕掛けが施されています。思いがけない所から水が飛び出し、訪問者の歓声が耐えません。水力で動くミニ人形劇場もあります。4～11月オープン。

アクセス：市内からバス25番で20分

www.hellbrunn.at

レッドブル・ハンガー7 ザルツブルク空港には、7番目の格納庫と呼ばれる貝殻のような形をしたガラス張りの超近代建物があります。使用した1754個のガラスパネルは飛行機の発着によるどんな振動にも耐えられるよう設計されており、内部はレッドブルのエクストリームスポーツで活躍するF-1マシンや航空機などが展示されています。併設のレストラン「イカルス」は、ザルツブルクを代表する美食のスポットです。

www.hangar-7.com



FOTO © Tourismus Salzburg GmbH/Guenther Breitegger, Hangar 7

ザルツブルクの郊外へ

オーストリア屈指の景観を誇る
ザルツカンマーズグートと
国内最高峰グロースグロックナーへ。



ザルツカンマーズグート

ザルツブルクの東に広がるザルツカンマーズグートはオーストリア屈指の景勝地として知られています。1500～2000m級の山々に抱かれた高原内に、大小約50の湖が宝石のようにちりばめられている湖水地帯。この素晴らしい絶景は映画『サウンド・オブ・ミュージック』でも紹介され、多くの人々の心に今も残っています。マレーヤークリムトなどにも愛された地域です。

15世紀の古城（現在ホテル）が麗しい姿を水面に映してたずむ「フッシュルゼー湖」、この地方の中で最も美しいといわれている湖「ヴォルフガングゼー湖」の湖畔の町サンクト・ギルゲンは、リゾート地として人気の高いモーツァルトゆかりの地。対岸のサンクト・ヴォルフガングの町はオペレッタ『白馬亭にて』の舞台となったホテルが残る有名な町で、シャーフベルク山へ上る登山鉄道も人気です。『サウンド・オブ・ミュージック』の結婚式の舞台となった教区教会がある「モントゼー湖」、レハールやプラームスゆかりの温泉地で皇帝の別荘カイザーヴィラがある「バート・イッ

シュル」、ユネスコ世界遺産に登録されている「ハルシュタットとダッハシュタイン地域」、クリムトゆかりのアッターゼー湖など、魅力的な湖や町が点在します。

アクセス：ザルツブルクからバート・イッシュルまでバスで約1時間30分。ここからサンクト・ヴォルフガングまではバスで約30分。ザルツブルクから列車でバート・イッシュルやハルシュタットへ行く場合は、アットナング・ブッフハイムで乗り換えます。

グロースグロックナー

標高3798m、オーストリアの最高峰のグロースグロックナーは、初登頂以来200年以上経ったいまでも、数多くの神話と伝説が伝えられていることでも知られています。グロースグロックナーの名称の由来については、山の形が鐘（グロック）に似ていたからだとする説、あるいは金の発掘（ゴルト・クローケン）に関係があるという説などがあります。

FOTO © Österreich Werbung/Rainer Mirau

グラーツの 見どころ

旧市街と郊外のエッゲンベルク城は世界遺産。
ウィーンに次ぐオーストリア第2の都市グラーツは、
知る人ぞ知るグルメの都。



ウィーンから南へ列車で約2時間半で行くグラーツは、南欧の雰囲気漂う文化都市。赤い瓦屋根の並ぶ旧市街は今もなお中世のたたずまいを色濃く残しています。2003年欧州文化首都に指定されたことで、グラーツは他に類をみない独自性のある町に変化しました。古い街並みの中に極めて近代的な建物が溶け込んでおり、旧市街にアクセントを添えています。

シュロスベルク 13世紀の時計塔が立つ小高い山。グラーツはこの山を中心に開けていきました。山の上の城塞は、全時代を通じもっても堅固な城塞としてギネスブックにも載っています。19世紀初頭、ナポレオンさえも、この城塞を陥落させることはできませんでした。頂上へは石段を登ることもできますし、エレベーターを使うことも可能です。上には眺めの良いカフェ・レストランもあり、旧市街の大パノラマが楽しめます。

[MAP] P.28 A-1

州立武器庫(ツォイクハウス) 州庁舎隣の武器庫は、トルコの襲撃に対する武器の常備庫として造られました。中世の鎧や鉄砲など1551年以来の武器3万点以上が保管されていており、今でもすぐに使えらるほど整備されています。冬期は休館です。

[MAP] P.28 B-1,2

王宮 15世紀に皇帝フリードリッヒ3世が建て、後にその息子マキシミリアン1世が手を加え後期ゴシック様式に改修しました。王宮の主な部分は19世紀に撤去され、現在は州知事官邸となっています。最初の中庭を突き抜けた第3棟の脇には、1499年につくられた「二重螺旋階段」があります。ゴシック末期の石工芸術の傑作です。

[MAP] P.28 A-2



州庁舎 北イタリアの宮殿様式で建てられた州庁舎は、支柱の下に見られる彫刻と豪華な回廊をもつルネッサンス様式の美しい中庭が特徴です。

[MAP] P.28 B-1,2

中央広場と市庁舎 グラーツの街の中心。中央広場の真ん中には1878年に造られたヨハン大公像の噴水があります。これは、「シュタイヤマルクの王子」と呼ばれたヨハン大公を追悼するものです。丸屋根、時計、角型の塔を特徴とする市庁舎は、19世紀末から現在まで中央広場にその姿を誇っています。

[MAP] P.28 B-1

大聖堂(ドーム) この聖堂は、皇帝フリードリッヒ3世が1438年から1464年に王宮用教会として造られました。聖堂の南壁には、小さな張り出し屋根で保護された「苦難の絵」があり、1480年にシュタイヤマルクを襲ったベスト、トルコ人襲来、イナゴの大量という三つの苦難を表現しています。

[MAP] P.28 B-2

霊廟(マウソレウム) 皇帝フェルディナント2世の霊廟。この皇帝は、当時オーストリアの覇者としてグラーツに滞在し、文化史上非常に価値の高いハプスブルク家の霊廟の一つをグラーツに造らせました。イタリアの宮廷御用達画家であったジョバンニ・ピエトロ・デ・ボミスの設計です。

[MAP] P.28 B-2

歴史的広場とロマンティックな小路 市庁舎が建つ中央広場、肉屋が多いフランツィスカナー広場、カフェが立ち並ぶメル広場、伝統と現代文化が融合したフェルバー広場、イベントで賑わうシュロスベルク広場はいずれも明るい雰囲気、独特で魅力的な文化的風土を生み出しています。ヘレンガッセやシュポールガッセにはシックなブティックが、また、ザック通りには数多くの美術工芸専門店が並び、ショッピングや市内散策を楽しむことができます。

[MAP] P.28 B-1,2

クンストハウス グラーツ 建築家のピーター・クックとコリン・フルニエがこの印象深い建物を設計し、2003年に建設しました。このムーア川のほとりに建つ新しい現代建築とシュロスベルクの古い時計塔が生み出す独特のコントラストは、この街の象徴であり、そして、建設的で緊張感溢れる伝統性と前衛性の関係を見現しています。

[MAP] P.28 A-1

グラーツの文化イベント

3月に行われる「ダイアゴナル」オーストリア・フィルム・フェスティバル、6月には高名な「シュティリアルテ」クラシック音楽祭、演劇フェスティバル、ストリート・パフォーマンス、人形劇「ラ・ストラダ」などの他、グラーツ・オペラハウス、シャウシュピーレハウス劇場、ヒップなクンストハウス、または見事なバロック建築で知られるエッゲンベルク城で行われるさまざまな音楽公演がグラーツの文化イベントに花を添えています。





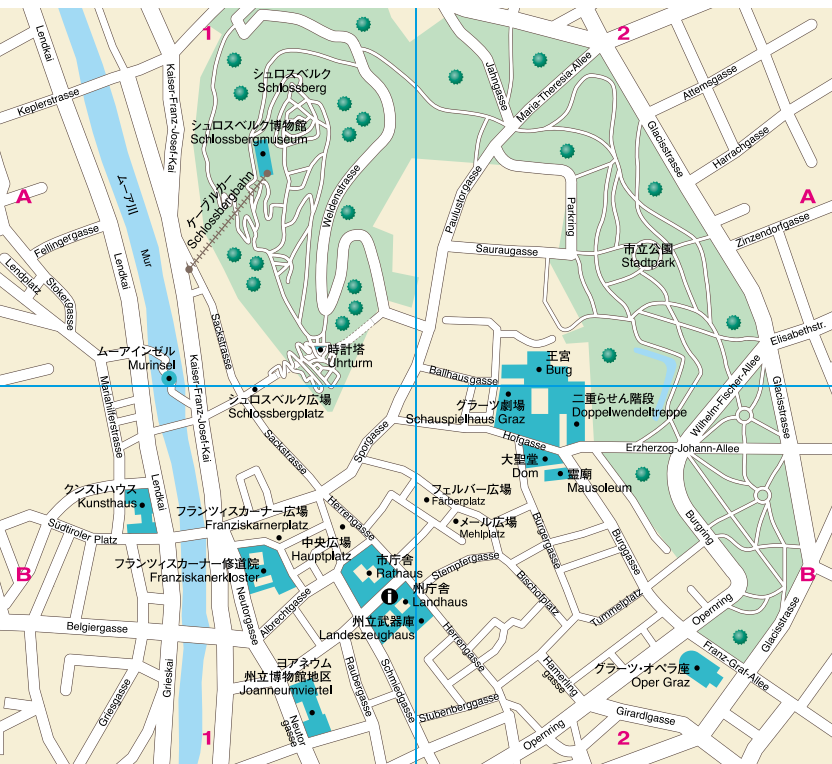
エッゲンベルク城 市内から市電1番で約15分西に行ったところにあり、この城はヨハン・ウルリッヒ・フォン・エッゲンベルク侯爵が中世の城を基に、1623年に居城として建設しました。豪華な内部はガイドツアーで見学できます（冬期は閉館）。貴重な日本の屏風『豊臣期の大坂』も現在ここに公開されています。また、城内にはアルテギャラリーが入っており500年以上にわたるヨーロッパの絵画、美術品が展示されています（年間オープン）。美しい「惑星の庭園」と公園は四季を通じて市民の憩いの場となっています。



FOTO © Österreich Werbung/Julius Silver, Graz Tourismus/Harry Schiffer

ムーアインゼル フランツィスカーナー広場から中央橋までは数歩しか離れていません。そこから、「ムーア・プロムナード」（ムーア川沿岸遊歩道）へ下りて行ける階段があります。この川辺の道は、ほんの少し休憩したり、あるいは、ちょっと川に足をつけてみたりするのに最適です。また、欧州文化首都をきっかけに設計された「ムーアインゼル」は、新たな街のシンボルです。ニューヨークの芸術家ヴィト・アコンチの設計で、この「川辺に浮かぶ貝」が創られました。二本の栈橋によって川の兩岸に繋がれており、中には喫茶店と半円形劇場があります。

MAP P.28 A-1



グラーツの郊外へ

州都をグラーツに置くシュタイヤマルク州は、森が豊かなことから「緑の州」とも呼ばれています。



南シュタイヤマルクのワイン街道

アルプスの大自然はもちろん牧歌的な村の風景も美しく、スロヴェニアと国境を接する南シュタイヤマルク地域はワインの名産地として有名です。エーレンハウゼンとロイチャハ間のおよそ25kmの街道は、シュタイヤマルクで最も大きなワイン栽培地域です。グラーツからは約50km、高速道路で約45分の間です。このワイン街道には、ブッシュェンシャンクと呼ばれるワイン生産者の直営店が点在しますので、ワイン愛好家にお勧めのルートです。例えば、ワイン居酒屋と宿泊施設のあるワイナリー「ケーグル」では、300年の歴史を持つ家屋を改築し、良質のワインを楽しんだ後、車で移動したくないゲストのために客室を提供しています。ワイン樽の間で夜を過ごせるユニークな客室もあります。グラーツから観光バスも出ています。

ローグナー パート・ブルマウ

日本でも知られているオーストリアの芸術家フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサーが設計したこの温泉ホテルの建物は、カラフルなファサードと黄金の丸屋根を備えた、まさに「住める彫刻」。自然の風景と現代建築を融合した憩いと安らぎの場です。波打つ丘陵風景は生きた総合芸術であり、温泉の湧き出す自然を通して、年を重ねるごとに熟成していきます。ヘルス&ウェルネスセットをはじめ、その他の医学療法、バラエティーに富んだスポーツやイベントプログラム、子供アドベンチャークラブやヨガなどの特別セミナーなどが揃っています。自由な造形、流れる曲線、虹の色彩……、ローグナー パート・ブルマウは、人と自然と建築が見事に調和している温泉です。グラーツから温泉への送迎バスもあります（5泊以上は無料）。

FOTO © Roger Bad Blumau

インスブルックと チロルの町々

中世の面影をたたえる

ハプスブルク時代の帝都インスブルック。

チロル州は、夏はハイキング、冬はウインタースポーツの聖地。



インスブルックはハプスブルク帝国の「陰の首都」と呼ばれ、政治、経済、芸術の発展において、ウィーンに次ぐ中心地として栄えました。現在でも中世都市の面影を強く残しています。美しいアルプスの山々が町を取り囲み、自然と文化が融合する魅力的な町です。

黄金の小屋根 ハプスブルク家の黄金時代を築いた皇帝マキシミリアン1世の宮廷用観覧席として建てられた、後期ゴシック様式の張り出しテラス。金箔をはった2657枚の瓦から「黄金の小屋根」と呼ばれています。欄干は砂岩のレリーフ、壁はフレスコ画が彩り、内部にはマキシミリアン1世の博物館があります。

ホーフブルク王宮 インスブルックの町の中心にあるハプスブルク家の2つ目の王宮。ウィーン以外に「ホーフブルク」と名付けられた王宮はここだけです。ジークムント大公が1460年に創建し、その後マリア・テレジアによって改築されました。華麗なシャンデリアや天井画で飾られた大広間は見逃せません。

ノルトケッテンバーン 市の北側に聳え立つノルトケッテ (2300m) へ、ホーフブルク王宮近くの駅からケーブルカーで約30分(フンガーブルク駅でロープウェイに乗り換え)で上ることができます。頂上のノルトパークからはチロルの400以上のアルプスの山々からグロースグロックナーまで眺望できる雄大なパノラマが広がります。ベルクイゼルのジャンプ台と同様、建築家ザハ・ハディドがデザインした4つの駅舎も必見です。

チロルの町々 牧歌的な山の景色で知られるチロル州。住人の大部分が生活するインターン渓谷には、インスブルック、ハル、ラッテンベルク、クーフシュタインなどの魅力的な町が点在します。また、ツィラータール、シュトゥーバイタール、エッツタールなどの渓谷、サンクト・アントンやゼーフェルトはハイカーやスキーヤー、そして休養を求める人々の理想郷として有名です。また、東チロルはザルツブルク州をはさんで離れたところに位置する自然の宝庫です。

FOTO © Innsbruck Tourismus/Christof Luckner

旅に役立つ 基本情報

商店の営業時間

商店は一般的に、月曜日から金曜日は9時～18時(店により8時から)、土曜日は17時まで営業しています。ウィーンのショッピングセンター等は、平日20時まで開いています。業種や季節により営業時間は変更され、特にリゾート地のハイシーズンは時間が延長されることもあります。日曜日や祝祭日は基本的に休業しますが、ミュージアムショップや一部のおみやげ店はオープンしています。

オーストリアの免税システム

オーストリアでの買物には付加価値税(MwSt.)が含まれていますが、条件をみたした外国の旅行者には、税金を免除する特典があります。通常、商品価格の約13%が払い戻されます。詳細は以下のウェブサイトでご確認ください。

www.austria.info > 基本情報・アクセス > 役立つ情報 > ショッピング・免税手続き

オーストリアへのアクセス

- **飛行機** 日本からの直行便は、全日空とオーストリア航空が就航しています。詳しいスケジュールは各社のウェブサイトをご覧ください。その他、多くの航空会社が経由便で日本とオーストリアを結んでいます。ウィーン国際空港シュヴェツヒャートの他、グラーツ、ザルツブルク、インスブルック、リンツ、クラゲンフルトの6都市に空港があります。
- **鉄道** 隣接するオーストリア周辺諸国から、ウィーン及びオーストリア各地へ快適な鉄道網が整備されています。鉄道の旅に関する詳細な情報は、オーストリア政府観光局のホームページをご覧ください。
- **自動車** オーストリアのアウトバーン及びその他の高速道路網は極めて良く整備されており、気ままな個人旅行には最適な交通手段です。高速道路は有料のため、利用にはヴィニエット(ステッカー)が必要です。キオスク、ガソリンスタンドでも購入できます。

www.vignette.at

オーストリア政府観光局公式チャネル

 **ウェブサイト**
www.austria.info

各地の紹介をはじめ、イベントの紹介や有益なアドバイス、楽しい話題も豊富です。旅の計画づくりにお役立てください。

 **Facebook**
[@feelustria.jp](https://www.facebook.com/feelustria.jp)

オーストリアから直送の、あるいは日本国内でのオーストリアに関するホットニュースを発信しています。Facebook「オーストリアの休日」を有効にご活用ください。

 **Twitter**
[@ANTO_Tokyo](https://twitter.com/ANTO_Tokyo)

オーストリアの観光情報や、オーストリアの美しい写真を発信しています。

 **YouTube**
www.youtube.com/austria

冬はスキーや雪山のハイキングなどのアクティビティ、夏は緑の草原を行くハイキングや雄大な山岳登山、オーストリア料理を紹介する動画が各種リスタップされています。ビデオで躍動するオーストリアのハイライトをご覧ください。

 **メールニュース**
「オーストリアニュースレター」

オーストリア政府観光局では毎月一回、無料の「オーストリアニュースレター」を配信しています。このメールニュースでは、オーストリアで休日を過ごすためのヒントや、オーストリアに関する最新情報、日本におけるオーストリア関係のイベントなどの情報が得られます。ご登録はウェブサイトかQRコードで：
<https://www.austria.info/jp/Newsletter>





オーストリアの 持続可能な 休暇のスタイル

サステイナブル・ツーリズム（持続可能な観光）が提唱される現在、観光の大衆化による環境や文化への悪影響、過度な商業化を避けて観光地本来の姿を求めていこうとする考え方が進んでいます。

オーストリアは世界で最も成功している観光地の一つです。このオーストリアで過ごす「持続可能な休暇」とは、一体どんな意味なのでしょう？ それは、大切な資源を利用し、オーストリアのずば抜けて質の高い生活を次世代も体験できるように配慮して自然を楽しむことといえます。

オーストリアの国立公園で生態学的な多様性を知ったり、エコホテルに宿泊したり、CO²を排出しない交通手段で移動したり、ピオレストランでオーガニック料理を味わうなどして、オーストリア式のサステイナブル・ツーリズムを体験してみてはいかがでしょうか。

 オーストリア
心弾むシンフォニー